

令和5年8月15日

各 位

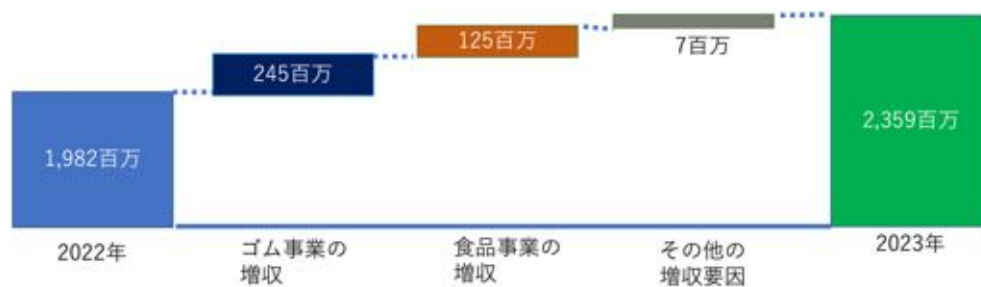
会 社 名 昭和ホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長兼最高経営責任者  
 此下 竜矢  
 (コード番号 5103 スタンダード市場)  
 問合せ先 代表取締役最高執行責任者  
 兼 最高財務責任者  
 庄司 友彦 (TEL. 04-7131-0181)

### 当社第1四半期連結経営成績の内容に関するご説明

当社は2023年8月14日、第1四半期の決算短信を発表しました。2022年第1四半期との比較で主な増減とその要因について、概略をご説明させていただきます。

① (売上高) : 23億60百万円 (+377百万円 +19.0%)

売上高の増加は主に**ゴム事業及び食品事業の増収**が大きく貢献しました。ゴム事業においては新たな連結子会社が貢献して拡大しました。食品事業においては中核となる商品群の販売が堅調に推移しております。その他コンテンツ事業は大幅に収益が上がった前年同期の反動があったものの好調を持続しており、スポーツ事業においても業績の回復傾向となって拡大していることから、総じて大幅な増収となりました。



② (営業利益) : 24百万円 (+46百万円 +182.8%)

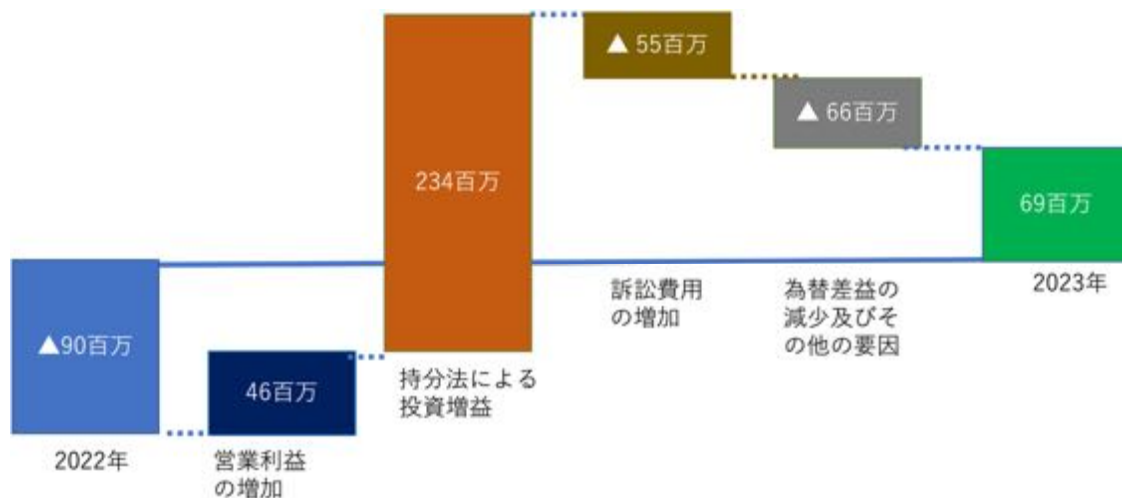
昨年より続く世界的なエネルギー資源、各種原料の価格高に円安が重なることにより、食品事業、ゴム事業、スポーツ事業が経費の増大を被りました。その影響を超えて、好調な販売に加えて、数年来商品構成の見直しや生産性の向上等を通じて収益性を改善し

てきた食品事業が利益を大幅に拡大しました。また、新たな連結子会社の収益を取り込んだゴム事業も営業利益を拡大し貢献しました。コンテンツ事業に前年同四半期に多額のロイヤリティ収入があった反動があり、スポーツ事業はコロナ禍後の営業活動の活発化を得て先行投資的経費増もあり、それぞれ貢献を減少させました。好調は持続しております。これらの結果、大幅な利益拡大となりました。



③ (経常利益) : 69 百万円 (+160 百万円 黒字転換)

上記の営業利益の拡大に加えて、持分法適用会社が営む事業である **Digial Finance 事業の収支が改善**したことに加え、**リゾート事業が大幅な収益改善**を実現、持分法による投資収益が拡大しました。継続中の訴訟の費用が増加し、対前年同期比で為替差益が減少した結果利益額は縮小したものの大幅な黒字転換となりました。



④ (親会社株主に帰属する四半期純利益) : ▲20 百万円 (+75 百万円 損失縮小)

四半期純利益においては少数株主持分の流出等により赤字となりましたが、上記の要因により損失はは大きく縮小いたしました。

今後とも各事業の収益改善を進めることで、利益拡大を目指して参ります。すでに国内事業、海外事業それぞれに中期的に収益が増加する基盤が固まってまいりましたので、今後も現在の利益拡大を確実に進めてまいります。

以上、ご確認いただけますようよろしくお願いいたします。

以 上